

ポイント-3：地域の特色を活かした川づくり

【地域の特色を活かした川づくり】

大阪が持つ特色を“活かし”、行政、経済界、NPO、住民など、人と人を“つなぎ”、みなさまと“楽しむ”水辺づくりをめざすため、地域と一体となった水辺環境の整備や、都市景観の質的向上を図る水辺空間の再構築、都市・地域再生等利用区域の指定による河川占用許可の規制緩和など、河川を利用した賑わい空間の創出を行っています。また、河川をより安全に利用いただける取組も行っています。

④大阪ふれあいの水辺づくり



水辺に親しむ「砂浜ゾーン（愛称：桜ノ宮ビーチ）」と生物の多様性に配慮した「自然再生ゾーン」を整備し、ビーチスポーツや自然観察などに利用されています。

③八軒家浜



北大江たそがれコンサート

平成23年7月に特区指定（※1）し、水都大阪の拠点として、水上ネットワークの繋がりを活用し、周辺企業によって様々なイベントが実施されています。

②安威川ダム周辺整備（ダムパークいばきた）

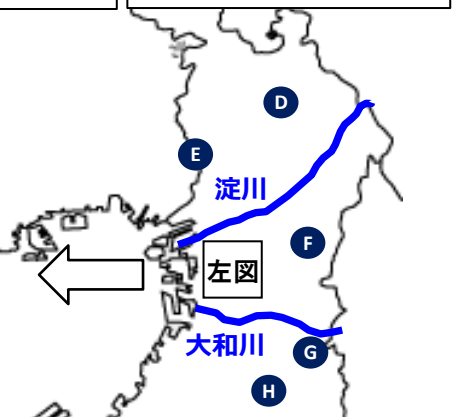


茨木市と連携し、安威川ダム周辺の賑わいづくりを推進しています。（令和6年4月ダムパークいばきた一部オープン、令和7年3月吊り橋エリアオープン）

①千里川土手原田地区かわまちづくり



豊中市、関西エアポート株式会社などと連携し、飛行機を鑑賞しながらみどりや河川に親しむことができる環境を一体的に整備します。



⑧水辺空間の再構築（土佐堀川・堂島川）



大阪市中心部を流れる堂島川・土佐堀川において、老朽化した護岸の更新にあわせて表面仕上げ等の美装化を行うなど、水辺空間の魅力向上に取り組んでいます。

⑦恩智川クリーンリバープロジェクト（浮遊ごみ対策）



浮遊ごみ対策の効果的な啓発や流域の清掃などに取り組みます。

⑥河川清掃活動 大和川・石川クリーン作戦



地域と協働で河川清掃活動を行っています。大和川水環境協議会（国、大阪府、13市町村）が主催し、令和7年度は、府民約10,000人が参加しました。

⑨狭山池を活かした賑わいの創出



地域主体により「狭山池まつり」や「グリーン・アクション」など狭山池を中心とした活動が行われています。また、令和8年度は、狭山池博物館において、開館25周年記念イベントを実施します。

アドプト・リバー・プログラム（※2）



地域との協働により、河川の清掃や花栽培などのボランティア活動を支援します。（令和8年3月時点で169団体を認定）

※1 特区指定
「都市・地域再生等利用区域」の指定を行うことで、河川敷地にオープンカフェなどの賑わい施設の設置が可能となります。

※2 アドプト・リバー・プログラム
府が所管する河川の一定区間において、地域の団体などに継続的に美化活動を行っていただくもの。

【川の安全利用への取組】

河川敷での散歩や、魚の観察など、川は地域の憩いの場所でもあります。一方で、川には命にかかわる危険も潜んでいます。

川に近づく際の危険（急な増水や深みに注意など）をお知らせするために、ホームページで周知をしたり、川の近くに看板を設置する等の注意喚起を行っています。

※ホームページ「川をよく知ろう！-水難事故を防ぐために-」

<https://www.pref.osaka.lg.jp/kasenkankyo/kawawoyokushirou/index.html>

